去る年中より越後少将不義之儀を判敗し、その義政
を立て、こなたを奥方へ賜り、家老ども切腹仰付
被遣なく、ふたりに切腹を減じ、因果現前なり、武家と
いえども智恵なく、名を惜しむ侍といえども、その罰すれば近くに
方便なし、行ずく、国勢の如、四海を掌内に
なしき国まで、書て者なきを、漢帝罰の如く九族の
根を絶、ものを之を殺すを、法なり、是国を治、
之業、限あることなれば、不義を行ふ者は、
仇となること、今眼前なり、されば侍は、
まもまで、命は惜て、軽しとして、文を学び、
戸をとざし、名を求め、物を学ぶこと、
人間生涯五体を具足する者、畜生の思ひ、
ながく永命を求んとぞ、永権して、非義の
謀をなして、一旦の利欲に、法を死を、
代物、或は、恥、められ、肩をすくめ、
敵人の意下に、立ち、安情の、浮沈なく、生きたる甲斐、
更なきこと、其上、運命は、必体、なれば、天命に、
てられ人、なれば、猶、なるべし、日夜、法世こ